

地域農林経済学会ニューズレター

The Association for Regional Agricultural and Forestry Economics

2022. 12.25 第 33 号

編集・発行 地域農林経済学会 <http://a-rafe.org/2/o>

【学会事務局】〒602-8048 京都市上京区下立売通小川東入 中西印刷株式会社学会部内

TEL: 075-415-3661 FAX: 075-415-3662 E-mail: arfe@nacos.com

目次

1. 『農林業問題研究』第 58 巻（第 225～228 号）総目次	1
1-1 総目次	1
1-2 農林業問題研究 57 巻・58 巻 査読者一覧（2021. 01. 01～2022. 12. 31）	3
1-3 編集後記	4
2. 近畿支部大会報告	4
2-1 支部大会の趣旨と概要	
2-2 研究報告の概要	
2-3 さいごに	

1. 『農林業問題研究』第 58 巻（第 225～227 号）総目次

1-1 総目次

第 58 巻・第 1 号（第 225 号）2022 年 3 月

<会長講演>

メゾエコノミクス：再考

浅見 淳之

<座長解題>

農林業問題研究への多様な接近—地域資源の発掘と持続的利用—

足立 芳宏

<大会講演>

「ふるさとの味」をめぐる調理リテラシーの普及過程と生活世界—長野県上伊那郡における地域資源の発掘と利用—

湯澤 規子

日本民俗学における農村研究の方法とその可能性—インドネシア農村での地域資源調査の事例から—

山下 裕作

<国際ミニシンポジウム>

Transformation towards Sustainable Agriculture, Rural Communities, and Ecosystems: Reviewing Global Trends and Local Realities Based on Interdisciplinary Approaches

Keshav Lall Maharjan, Kae Sekine, Tadayoshi Masuda
Agroecology and Systems Analysis for Sustainable Agriculture

Santiago Lopez-Ridaura

Territorial Scaling of Agroecology: at the Intersection of Agri-food Sustainability Transitions and Rural Revitalization Zollet Simona

Power Dynamics and Discourses behind Climate Smart Agriculture: Global Context and Contest Shuji Hisano

<特別セッション>

コロナ禍における農業生産・販売—地域からの実態報告— 松村 一善

<書評>

中島紀一 編『「自然と共にある農業」への道を探る 有機農業・自然農法・小農制』 大原興太郎

渋谷往男 編著『なぜ企業は農業に参入するのか』 川崎 訓昭

第58巻・第2号（第226号）2022年6月

<個別報告論文>

ネガティブな要因をきっかけとする若者の帰郷・定住プロセスと心理変化—島根県雲南市を事例として— 上田航平・高田晋史

農山村における外部人材の継続的な協働を促す働きかけ—福井県越前町熊谷区の事例から— 小林悠歩・中塚雅也

Text-Mining Analysis on Qualitative Characteristics of the Substantial Community-Based Master Plan in Unfavorable Area in Japan: A Case of the Sanin Region Xiaoxi Gao・Nobuyoshi Yasunaga・Norikazu Inoue

Working in the Garment Industry and Child Education and Work in Cambodia Miwa Kana

Does Migration Push Exit from Agriculture in Mexico?

Yuji Nagaoka・Atsushi Chitose・Motoi Kusadokoro
農福連携の取組が農業経営にもたらす影響 中本英里・豊田正博・山本俊光

<書評リプライ>

“Community-based Rural Tourism and Entrepreneurship A Microeconomic Approach” 〈評者：八木浩平（第57巻・第3号）〉 大江靖雄

<書評>

上田 遥著『食育の理論と教授法 善き食べ手の探求』 山田伊澄

第58巻・第3号（第227号）2022年9月

<研究論文>

The Impact of Elite Farmers on Cocoa Pests and Diseases in Ghana and Côte d’Ivoire

Adams Aziz Abdulai, Motoi Kusadokoro, Atsushi Chitose, Masaaki Yamada

労働観の形成による農業への定着—進路選択の制約をきっかけに農業に従事し始めた青年の事例から— 鈴木 淳

<個別報告論文>

自給飼料給与乳製品の購買における情報処理プロセスと価値意識—諸要因の因果関係の解析による販売方策の提示— 澁谷美紀

ECサイトのレビューデータに基づいた牛肉の部位別消費者評価の特徴

服部明彦・加藤弘祐・山本淳子

農業法人による地域農業への貢献意識と取り組み—全国アンケート調査の分析—

長命洋佑・南石晃明

障がい者の農業就労に向けた支援活動の実態と課題—三重県における支援者養成講座修了者を対象に—

飯場聡子・山端直人

スリランカ山岳地域における農作物取引—農作物の貯蔵性と立地特性に着目して—

岡庭 なぎさ・千年 篤・草処 基

<書評リプライ>

「自然と共にある農業」という提案の含意——大原興太郎さんの論評に励まされて——評者：大原興太郎（第58巻・第1号） 中島紀一

『食育の理論と教授法 善き食べ手の探求』評者：山田伊澄（第58巻・第2号）

上田遥

第58巻・第4号（第228号）2022年12月

<書評>

辻村英之著『キリマンジャロの農家経済経営』

加藤珠比

1-2 農林業問題研究 57巻・58巻 査読者一覧（2021.01.01～2022.12.31）

芦田 敏文・秋津 元輝・青木 美紗・赤沢 克洋・赤堀 弘和・浅見 淳之・足立 芳宏・石田 章・池上 甲一・一條 洋子・伊藤 淳史・伊庭 治彦・井上 憲一・稲田 光朗・岩崎 正弥・岩本 博幸・上西 良廣・内山 智裕・鬼塚 健一郎・大石 和男・大江 靖雄・大仲 克俊・加藤 珠比・香川 文庸・片岡 美喜・片倉 和人・岸上 光克・北野 慎一・鬼頭 弥生・木附 晃実・木原 奈穂子・清野 誠喜・九鬼 康彰・草処 基・工藤 春代・久保 雄生・巖 善平・坂井 真紀子・坂梨 健太・坂本 清彦・澤内 大輔・柴垣 裕司・澁谷 美紀・霜浦 森平・新保 輝幸・角田 毅・関根 佳恵・千田 雅之・高篠 仁奈・高津 英俊・高田 晋史・高橋 明広・竹内 重吉・竹歳 一紀・駄田井 久・田中 裕人・種市 豊・玉 真之介・長命 洋佑・沈金虎・鶴田 格・徳田 博美・富吉 満之・中尾 誠二・中本 英里・中塚 雅也・中村 貴子・西村 武司・原田 智子・万里 胡 柏・藤井 吉隆・藤栄 剛・藤本 高志・福井 清一・房安 功

太郎・堀田 学・本田 恭子・増田 清敬・松下 秀介・松本 浩一・Keshav Lal1
Maharjan・丸 健・三浦 憲・宮井 浩志・三輪 加奈・矢倉 研二郎・保永 展
利・八木 浩平・山口 創・山下 良平

1-3 編集後記

我々の生活様式を一変させたコロナ禍ですが、2022年は至る所で規制緩和の動きが見られました。地域農林経済学会大会にも初めて対面で参加することができ、研究者の方と直接言葉を交わして意見を交換し合う重要性を再認識しました。また、9月には3年ぶりに研究対象国のザンビアを訪問することができ、そこでも現地の方々との対話を大いに楽しむとともに、彼・彼女らとのコミュニケーションが起点となって研究課題が深化する感覚

を久しぶりに味わいました。この度、刊行されます228号は、そのような現場における対話と参与観察の積み重ねを研究成果として見事に昇華させ纏め上げた書籍に対する書評を掲載しています。この数年、出来なかった研究スタイルを少しずつ取り戻すとともに、フィールドからの新鮮な実証報告を研究者同士で直接議論し合う場がこれからも徐々に増えていくことを願っています。(K. M.)

2. 近畿支部大会報告

2022年度 地域農林経済学会近畿支部大会
(2022年9月2日、於神戸大学)
高田 晋史

2-1. 支部大会の趣旨と概要

2022年度の地域農林経済学会近畿支部大会が9月2日の午後、神戸大学で開催された。これまで、近畿支部大会では学会活性化の観点から、大学院生や若手研究者の報告を積極的に奨励してきた。今年度もこの方針をベースに、研究報告の募集にあたっては、体系立った研究だけでなく、構想段階の研究も歓迎した。また、学会員の裾野拡大の観点から、会員の紹介であれば非会員による報告も可とした。このほか、昨今のコロナ禍の影響からオンラインによる開催が続いていたが、本研究会は対面で実施し、ネットワークキングの時間も確保するなど、参加者同士のリアルな交流促進も試みた。

支部大会の参加者は27名であり、11件の研究報告があった。開始に先立ち、浅見会長より挨拶を賜り、続いて高田より本研究会の趣旨説明を行った。その後、報告10分、質疑5分で研究報告を行い、全ての研究報告が終了した後の15分間をネットワークキングの時間とした。最後に開催校を代表して中塚理事より閉会の挨拶がなされ、支部大会が終了した。

2-2. 研究報告の概要

第1報告は李娜氏(京都大学大学院)による「地域ブランド緑茶のトレーサビリティシステムの構築における産業協会の役割：中国『西湖龍井茶』と日本京都府『宇治茶』の比較分析」である。本報告は中国の西湖龍井茶と京都府の宇治茶における生産履歴の管理システムを対象とし、システムにおいて重要な役割を果たす関連組織を取引費用論の枠組みを用いて比較分析し、西湖龍井茶において不正が発生する背景を考察したものである。

第2報告は長岡佑治氏(東京農工大学大学院)による「卸売市場で形成される公表価格が市場内外の相対取引に与える影響」である。本報告は構想段階のものであるが、卸売市場において公表価格が相対取引においてどのような影響を与えるのかを考察し、最終的には現実的な理論モデルを構築しようというチャレンジングな内容であった。

第3報告は野村謙太郎氏(龍谷大学大学院)による「社会的領域における都市農業研究の動向整理および発展可能性」である。本報告は構想段階のもので、都市農業に関する先行研究の動向を丁寧に整理し、先行研究の蓄積をベースに都市農業研究をどのように発展させていくべきかを提

示し、今後における研究の構想が示された。

第4報告は劉尉彤氏（京都大学大学院）による「中国における『農村一二三産業融合発展』の構造分析：山東省・滕州市D村の元宝楓事業の実態」である。本報告はD村での元宝楓（満州板屋）の栽培・加工・販売の一体的な取り組みが、住民の増収につながっていることを明らかにした。また、事業の実施にあたり、資金力を持つ龍頭企業との連携や政府による支援の重要性が指摘された。

第5報告は木村勇樹氏（東京大学・農林水産研究所）による「新型コロナウイルス感染症流行初期における繁華街の集客範囲と感染状況」である。本報告は構想段階のものであり、歌舞伎町の来街者の居住市区町村情報を用いて、緊急事態宣言や時短要請などの解除が集客範囲の回復にどう影響するのかを定量的に明らかにしようとしたものであり、分析モデルをどうするかが主な議論点であった。

第6報告は丸山優樹氏（農林水産政策研究所）による「位置情報データを活用した人流と立地条件の関係性評価：緊急事態宣言前後での比較」である。本報告は研究の進捗状況や今後の展望を示したものであり、東京都を対象に、携帯電話に位置情報データから、緊急事態宣言下でも集客効果を持つもの及び地域とその要因を特定し、人流予測モデルの構築を試みようとしたものである。

第7報告は Farouque Mohammad Golam 氏（立命館大学）による「Assessing the Need for Capacity Building of Farmers on Low-external-inputs Vegetable Cultivation for Enhancing Food Safety and Security: An Empirical Study in Bangladesh」である。本報告はバングラデッシュにおいて外部からの投入財を積極的に持ち込まない農法（LEIT）に対する野菜生産者の態度について定量的な分析を行ったものである。ここから、LEITに対する肯定的な考えを持つ生産者が多いものの、知識不足が課題であり、生

産者の能力強化の必要性が示された。

第8報告は劉可氏（京都大学大学院）による「インテグレーションにおける農産物加工企業の原料調達・集荷体制の変遷：中国湖北省の帯状レンコンを事例として」である。本報告は研究の進捗状況を示したものであり、湖北省の食品加工企業を対象に、原料調達体制がどのように変遷してきたかを実態調査に基づき考察している。そして、今後の展望として、企業の取り組みが生産者の所得向上にどう結びついているのかを分析していくことが示された。

第9報告は岡本美咲氏（神戸大学大学院）による「倫理的消費に対する消費者評価：表明選好法による接近」である。本報告は北海道産の飲用乳を対象に、どのような消費者が地産地消を評価するのかを消費者の属性に着目して定量的に分析したものである。その結果、消費者の年齢や当該地域への居住年数、購入頻度、年収などが評価に関係していることが明らかにされた。

第10報告は山本洋輝氏（京都大学大学院）による「項目反応理論を用いた地域づくりとその支援のプロセスの検討」である。本報告は京都府における共に育む「命の里」事業を対象に、里の仕事人の活動状況から地域づくりのプロセスと里の仕事人が果たした役割を検討し、地域主体の変容を意図した直接的な支援の方法論の構築が試みられている。

第11報告は横田千博氏（東京農工大学大学院）による「不完全労働市場が組織経営体の販売形態に及ぼす影響の経済分析」である。本報告は家族経営体と法人経営体では直販への取り組み水準が異なること、法人経営体では農協と直販の販売金額にあまり差がないことの要因を、経済モデルを用いて解明しようとしたチャレンジングな研究であり、研究の発展可能性も示された。

2-3. さいごに

今回は近畿支部大会ではあったが、東京からの参加者もあり、参加者は大学院生や

若手研究者を中心に非常に多様な顔ぶれとなった。また、構想段階の研究も可としたことで、若手ならではのチャレンジングな研究も見られた。全体を通して、分析の枠組みや問題意識について幅広く議論をしたい、現在の研究に新たな視点を導入したいという大学院生や若手研究者のニーズを感じ、改めてこのような場の重要性を実感するとともに、若手研究者の育成という観点からも学会としてこのようなニーズにどう対応すべきかを考えていく必要があると感じた。また、参加者同士の交流

のために設けたネットワーキングの時間は、当初の想定以上にあちこちで活発な意見交換がなされ、対面で支部大会を実施することの意義を改めて感じた。最後に、反省点としては、報告者以外の参加者が少なかったことであり、もう少し早くから周知をし、多くの参加者を募ることが必要であったと感じた。議論の更なる充実のためには、バラエティに飛んだ研究者及び実践者が参加を促すことも重要であり、これについては今後の課題としたい。

(筆者：神戸大学)



★編集後記

会員相互のよりよいコミュニケーションにむけて、皆様からのご意見やご要望、ご提案をお待ちしております。組織・広報担当常任理事（柴崎浩平 shibazaki.k@shse.u-hyogo.ac.jp または長命 洋佑 hirosimauniv.onmicrosoft.com）まで、積極的にお知らせ下さい。（M.H.）

地域農林経済学会ニューズレター 第33号

発行日：2022年12月25日

ARAFE Newsletter No.33

Dec.25 2022

発行者：地域農林経済学会常任理事会（組織・広報担当）
